



開町50周年

町をあげて祝う多彩な催し



開町50周年記念パレードの様子

大正4年、戸数692をもって野付牛村より分村して置戸村が誕生。時移って50周年を迎えた昭和40年10月1日には、町をあげて記念式典と祝賀会が実施されました。

かつて昼なお暗かった原始林の地は豊かな農地に、けもの道は大型ダンプカーが走る国道に、街には近代的な商店が並び、公民館、図書館、小・中・高校と教育施設が整い、ゆりかごから墓場までの社会福祉施設も充実してきました。

午前7時に祝いの花火で開幕した祝典は、午前10時に林友の町営グラウンドより、置戸・勝山・境野・秋田の各小学校鼓笛隊につづいて、置戸小学校5・6年生全児童がリズムに合わせて「開町50周年」の小旗を振りながら行進。その後を置戸中学校プラスバンド、そして置戸高校生徒の仮装行列が加わり、祝賀ムードを盛り上げました。

式場となった高校体育館は万国旗やくす玉で飾られ、町内の70歳以上の敬老会出席該当者400人が正面に座り、その後ろに町内外の来賓、表彰者、

町内公職者など約700人が集まって盛大に開町50周年を祝いました。

式典では、町田清光氏（地域開発）、由利鶴蔵氏（産業）、青木武氏（消防）の三人が功労者表彰を受けたほか、永年勤続の町議会議員、農業委員、駐在員、民生委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員、消防団員など約50人が表彰されました。

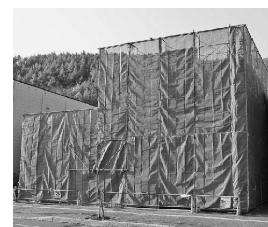
また、置戸の歴史と現況を集録した記念誌『置戸町の50年』（B5判約180ページ）が全戸に配布され、貴重な資料が無料で提供されたほか、図書館で置戸の昔の写真50点や、開拓時代に使用した農機具などを展示、あわせて東京オリンピック写真展などが行われ、さらに9月24日には町有林約80%にトド松2,000本の記念植樹が実施されるなど、人口11,000人以上を数えた置戸の全盛期ともみられる開町50周年記念では、さまざまな催しが行われました。

（参照：置戸町史下巻）



NPO法人に認証された

置戸町くらしサポートたちつてと



置戸町くらしサポート「たちつてと」（溝井弘一理事長）が、このほど、道知事からNPO（特定非営利活動）法人として正式に認証されました。溝井理事長は「まずは無事にスタートが切れてほっとしています。間もなく完成する障がい者活動拠点施設の運営開始に向けて、しっかり準備を

進めています」と語ります。また、同施設内には、喫茶や軽食を提供する地域サロン『キッチン木の実』をオープンさせる考えで、地域住民の憩いの場になるようにと利用の呼びかけを行っています。「たちつてと」は、障がい者の活動支援体制づくりなどを進めるため、今年4月に設立。現在、会員数は木ノ子クラブ会員やボランティアの方々を中心とした正会員48人と、活動支援のための賛助会員148人で、「活動に賛同いただければ誰でも会員になれます」と、町民の一層の支援を望んでいます。



事務室の様子（地域福祉センター内）